

ISSN 0915-1613

年 報 5

昭和 63 年度

1989. 3

山梨県埋蔵文化財センター

年報 5

昭和63年度

1989. 3

山梨県埋蔵文化財センター

序

当埋蔵文化財センターが設立されてから、今年3月で7年を経過いたしました。この間、中央自動車道建設に伴って発掘調査された、一宮町、勝沼町に所在する积迦堂遺跡や御坂町姥塚遺跡・二の宮遺跡などの整理・報告書作成事業を始め、長坂IC、上野原IC建設に先立つ発掘調査、関東農政局の笛吹川農業水利事業に伴う境川村・の沢遺跡・中道町上野原遺跡・御坂町八代町花鳥山遺跡などの発掘調査、ハッカ岳山麓の恩賜林高度活用に伴う丘の公園建設用地内の発掘調査、甲斐風上記の丘・曾根丘陵公園整備に伴う国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳や公園内に散在する遺跡の発掘調査や整理・報告書作成事業などを進めて参りました。このほか、国・県などの開発計画地域の分布調査を毎年実施し、遺跡の保護・保存のための資料作成を行っております。また、啓蒙普及活動の一環として、山梨県考古学協会と共に、県内の主要遺跡の発掘調査成果の発表会を年2回開催しております。

本書は1988年度に山梨県埋蔵文化財センターが行った発掘調査の概要と、分布調査・遺跡調査報告会などの事業概要と、県内の年間発掘一覧表を掲載いたしました。県内の市町村が行っている発掘調査も年々活発になり、「和名抄」に見られる郷名が記された一宮町大原遺跡出土の墨書き器は、「玉井郷」の具体的な位置を明らかにしただけでなく、その下に「郷長」という文字が続けて書かれていたことによって、大原遺跡が玉井郷の中心地の一部であることが明らかになりました。また、この「郷長」の墨書きは律令体制の末端組織を検討するうえで、古代史上の重要な文字資料と言えるものであります。このほか、八代町堀ノ内遺跡、韮崎市宮の前遺跡などでも、古代の山梨の歴史を知るうえで、興味深い遺構や遺物が発見されております。

近年は、中部横断道路の敷設が予定され、ゴルフ場・工業団地・道路新設などの開発事業が年々活発化するなかで、埋蔵文化財の発掘調査も著しく増加しております。発掘調査で発見された遺構や遺物を見れば分かるとおり、遺跡は地域古代史のタイムカプセルであります。本書をご利用いただき、埋蔵文化財の保護・保存をはじめ、啓蒙・普及活動に一層のご協力とご理解をお願いいたします。

1989年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 磯貝正義

目 次

I 1988年度の事業概要	1
1. 発掘調査	4. 収蔵資料の貸出及び掲載
2. 整理事業	5. 遺跡調査発表会
3. 発掘調査報告書	
II 各遺跡の発掘調査概要	
天狗沢窯跡	6
宇津谷窯跡	8
上土器遺跡	10
小倉窯跡	12
桜井畑遺跡（A地区、B地区、C地区）	14
丘の公園第5遺跡	19
身洗沢遺跡	20
妻ノ仲遺跡	22
水呑場北遺跡	24
鍋弦塚	26
八ヶ岳東南麓他遺跡分布調査	28
長田口遺跡	30
東山南遺跡	31
立石遺跡	32
III 県内の概要	33
付篇	
1988年度県内埋蔵文化財発掘調査一覧表	35

例　　言

- 本書は、1988年度の事業をまとめたものである。
- 本書の編集から刊行までの作業は、年報編集担当（末木 健、保坂 康夫）が行った。

職員組織

所長　　藏只　正義

次長　　廣瀬　等

(庶務)

副主幹　長田　保守

主事　　三井　徹也

業務員　　保坂　貢

調査研究第一担当

副主幹・文化財主事 森 和敏

副主査・文化財主事 板本 美文

主任・文化財主事 小野 正文

(根治堂遺跡博物館組合派遣)

主任・文化財主事 出月 洋文

主任・文化財主事 長沢 宏昌

調査研究第二担当

副主査・文化財主事 末木 健

副主査・文化財主事 小林 広和

主任・文化財主事 八巻 輿志夫

文化財主事 保坂 康夫

文化財主事 山中 誠二

I 1988年度の事業概要

埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の保護・保存及び研究を行うとともに、出土品の収蔵・保管を行っている。具体的には、県及び国が行う開発事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査を行い、その出土品の整理と報告書作成を行っている。また、各遺跡から得られた成果に基づき、原始・古代の山梨の生活文化の復元研究、ならびに考古博物館と提携しての埋蔵文化財啓蒙活動・遺跡報告会などを進めている。一方、県内の文化財保存の中心的センターとして、市町村における埋蔵文化財関係事業への指導・助言も、要請に応じて対応している。

1. 発掘調査

一覧表にあげたとおり、本年度の発掘調査は15カ所、分布調査4カ所で、発掘調査面積27,873m²である。発掘調査期間は1988年4月18日から、1989年2月末まで、ほぼ1年間を費やしている。今年度は天候に左右される事が多く、夏季の雨天、冬季の暖冬などが調査に影響を与えた。従来は12月から3月は土の凍結や寒風、日照時間の短さ、報告書の作成などで、現場作業が困難であるが、今年度は暖冬で調査が一部可能となった。発掘の原因となる工事の内容は、建物及び駐車場3、道路4、公園3、管水路埋設1である。

本年度の最も大きな調査は、甲府市桜井畠遺跡であろう。この遺跡は3地区に別れており、A地区は労働会館建設に伴う発掘地区、B地区は青少年会館建設予定地、C地区はA地区に伴う道路と駐車場予定地である。A地区から古墳時代初頭では、全国的にも最大クラスの方形周溝墓が発見されており、当時の勢力分布図に新たなマークをつけた。B地区からは古墳時代～平安時代の集落跡が発見されている。丘の公園第5遺跡は標高1200mという八ヶ岳山麓の尾根上にあり、住居遺構などの発見はないものの、縄文時代草創期～弥生時代・古墳時代の遺物が見られ、狩猟などにかかわるキャンプサイトとみられている。

国庫補助事業として2年目を迎えた牛生遺跡分布調査は、天狗沢窯跡・上土器遺跡・宇津谷窯跡・小倉窯跡の調査とその整理作業を実施した。天狗沢窯跡は遺跡の範囲について調査したものであり、町教育委員会が発掘した1～3号窯の西側から、縦に掘られた溝が発見された。上土器遺跡は窯本体が発見されず、灰原が検出された。宇津谷窯跡は江戸時代の地元窯であるが、窯の位置と灰原の調査を行っている。小倉窯跡は明治～大正の窯で1号・2号の位置が確認された。

道路建設に伴う身洗沢遺跡は、低湿地から弥生時代～古墳時代初めの土器が多く出土し、マントオバールの検出から、水田跡が発見される可能性がある。本調査は平成元年度であるが、今後の低湿地調査の方法を検討するうえで、重要な遺跡である。国道358号改良工事に先立つ中道町立石遺跡からは、先土器時代の石器などが2ヵ所に分かれて約50点出土している。石器の年代はおよそ2万5千年前といわれるものである。広域農道に伴う長田口遺跡は、弥生時代末～古墳時代初頭の住居址が発見されているが、本年度は遺跡南西端にあたるため住居群が散漫であるかもしれない。同じ広域農道関係で調査が行われた妻ノ神遺跡は、平安時代・近世遺構が発見され

ている。

風土記の丘公園関係では、鍋弦塚と東山南遺跡の調査を行っている。この事業は公園整備に先行させて遺跡の確認調査を行ったもので、鍋弦塚は明治40年に発見された蔵骨器を埋納した中世墳墓であり、東山南遺跡は範囲確認調査であるが遺構は確認できなかった。

2. 整理事業

1988年度は以下の整理事業を行った。

遺跡名	発掘年度	事業名	遺跡名	発掘年度	事業名
水呑場遺跡	1988	笛吹川農業水利事業	妻ノ神遺跡	1988	八ヶ岳広域農道
花鳥山遺跡	1987	笛吹川農業水利事業	長田口遺跡	1988	富士川西郡広域農道
下長崎遺跡	1987	笛吹川農業水利事業	小倉塗遺跡	1988	生産遺跡詳細分布調査
両之木神社遺跡	1987	笛吹川農業水利事業	上土器遺跡	1988	生産遺跡詳細分布調査
閑山遺跡	1987	中央道上野原I・C	宇津谷塗跡	1988	生産遺跡詳細分布調査
桜井塗遺跡A地区	1988	甲府労働者総合福祉センター	鍋弦塚	1988	山梨県甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園
桜井塗遺跡B地区	1988	山梨県立青少年会館	東山南遺跡	1988	山梨県甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園
桜井塗遺跡C地区	1988	甲府労働者総合福祉センター	城下町遺跡	1981	県営闘争整備事業
丘の公園第2遺跡	1987	丘の公園			

3. 発掘調査報告書

1988年度は以下の報告書を作成した。

第40集	閑山遺跡II
第41集	金生遺跡(A区)
第42集	一の沢遺跡
第43集	横坂遺跡
第44集	下長崎遺跡・両之木神社遺跡
第45集	花鳥山遺跡・水呑場北遺跡
第46集	丘の公園第2遺跡・丘の公園地内遺跡範囲確認調査(第2次)
第47集	八ヶ岳東南麓他遺跡分布調査
第48集	妻ノ神遺跡
第49集	鍋弦塚・東山南遺跡
第50集	桜井塗遺跡(B地区)

4. 収蔵資料の貸出及び掲載

1988年度は以下の収蔵資料を貸出した。

No	日付	申請物件名	申請者名	利用目的
1	5.16	一の沢西遺跡出土上偶 金生遺跡中空土偶(複製)	信濃国分寺資料館	特別展「古代人の信仰」に展示

No	日付	申請物件名	申請者名	利用目的
2	7. 15	赤鳥元年銘神獸鏡(複製)	一珠町教育委員会	町民文化資料館開館記念展示
3	7. 15	金生遺跡中空土偶(複製) 金生遺跡出土土偶(複製)	富山県歴史文化財センター	特別企画展示「十個—縄文人のこころ」に展示
4	7. 27	中丸遺跡出土土偶(複製) 安道寺遺跡出土土偶 一の沢西遺跡出土土偶 安道寺遺跡出土土偶 一の沢西遺跡出土土偶 村上遺跡出土人面把手	島根県教委文化財課	特別展「古代の女性」に展示
5	7. 28	安道寺遺跡蛇体装飾土器 金生遺跡出土中空土偶 金生遺跡出土土偶 鏡子塚古墳出土扇形埴輪	東京国立博物館	特別展「日本の考古学」に展示
6	7. 30	上の平遺跡出土編文土器 上野原遺跡出土編文土器 村上遺跡出土編文土器	佐賀県教育委員会	文化財資料室・博物館に展示
7	8. 23	天神遺跡出土硬玉製大珠	糸魚川市教育委員会	「北陸の遺跡展」に展示
8	8. 30	金生遺跡出土中空土偶	国立歴史民俗博物館	複製品製作のため
9	9. 30	金生遺跡調査の図・写真	大泉村教育委員会	史跡修復事業のため
10	10. 1	赤鳥元年銘神獸鏡(複製)	一珠町教育委員会	町民文化資料館に展示
11	10. 4	赤鳥元年銘神獸鏡(複製)	神戸市立博物館	企画展「卑弥呼の鏡」に展示
12	10. 17	金生遺跡配石遺構の写真	松山市教育委員会	展示パネル作成のため
13	12. 15	柳坪遺跡出土有孔鉢付土器 安道寺遺跡出土土器 一の沢西遺跡出土土器	茨城県立歴史館	「酒造の歴史と民俗」に展示
14	2. 22	岡山遺跡出土編文土器	上野原町教育委員会	町郷上資料展示室に展示

1988年度は以下の収蔵資料掲載の中請があり許可をした。

No	日付	申請物件名	申請者名	利用目的
1	4. 9	重郎原遺跡出土土器	日本美術工芸社	『日本美術工芸』5月号に掲載
2	4. 12	猿谷古墳出土人物面彌彌レプリカ	中道町	民芸館壁画装備に使用
3	5. 2	編文土器	中道町	テレホンカード作成のため使用
4	5. 31	一の沢西遺跡出土土器	学習研究社	『人間の美術』第1巻に掲載
5	5. 31	一の沢西遺跡出土土器	山梨新報社	『新甲斐国志』第1巻表紙カバーに掲載
6	7. 7	宮の前遺跡出土土器 殿林遺跡出土土器(埴文) 大月遺跡出土土器 北星遺跡出土土器 一の沢西遺跡出土土器 ヒ平遺跡出土土器	小学校館	『縄文土器大観』第3巻に掲載

No.	日付	申請物件名	申請者名	利用目的
		柳坪遺跡出土土器	小学館	『縄文土器大観』第3巻に掲載
7	8. 10	寺所遺跡遺構写真 丘の公園内遺跡遺構写真 天神遺跡遺構写真 釧路堂遺跡出土土偶 金生遺跡航空写真 * 遺跡写真 * 遺物写真 金の尾遺跡遺構写真 上の半遺跡航空写真 東原遺跡遺構写真 城下遺跡全景写真 原田遺跡遺構写真	大泉村教育委員会	『大泉村誌』に掲載
8	8. 18	展示風景写真	新南社	『縄文ユートピア(仮題)』に掲載
9	8. 30	金生遺跡出土七耳土器 諸塚遺跡出土土器 二の宮遺跡出土土器 北側遺跡出土土器	若草町誌編さん委員会	『若草町誌』に掲載
10	9. 1	馬乘山古墳航空写真 龟甲冢古墳出土鏡 龟王3号墳石室 稻荷冢古墳遺物出土状況	東京堂出版	『古墳大辞典』に掲載
11	10. 5	釧路堂遺跡土偶集合写真	釧路堂遺跡博物館組合	展示パネルおよび『展示案内』に掲載
12	11. 16	上野原遺跡出土土器 一の沢西遺跡出土土器	小学館	『縄文土器大観』第1巻に掲載
13	12. 5	釧路堂遺跡上偶集合写真	小野正文	『月刊文化財』掲載論文に使用
14	12. 10	金の尾遺跡出土弥生土器	ぎょうせい	『ビジュアルワイド新日本風土記』第1巻に掲載
15	12. 10	安道寺遺跡出土縄文土器	ニューサイエンス社	年賀はがきに掲載
16	12. 15	金生遺跡出土中空土偶	藤金信太郎	『土地家屋調査士』掲載論文に使用
17	12. 21	辻遺跡他の発掘写真・図	境川村	『境川村誌資料編』に掲載
18	12. 26	安道寺遺跡出土縄文土器	東武百貨店	『中国の春慶』の新聞広告に使用
19	12. 28	安道寺遺跡出土縄文土器	学習研究社	『人間の美術』第1巻に掲載
20	1. 31	金生遺跡出土中空土偶 金生遺跡出土土偶 巾丸遺跡出土土偶レプリカ 安道寺遺跡出土土偶 金生遺跡土偶出土状況 安道寺遺跡土偶出土状況	高山城址文化財センター	特別企画展『土偶—縄文人のこころ』の展示開幕に掲載
21	2. 20	金生遺跡出土中空土偶	大泉村教育委員会	『大泉村誌』に掲載

5. 遺跡調査発表会

山梨県内の遺跡発掘件数は、1988年度で80件に近い数に達し、さらに年々増加する傾向にある。本埋蔵文化財センターはそれらの内容をいち早く一般県民に周知するために、「遺跡調査発表会」を山梨県考古学協会と共に催で年2回実施している。本年度は上半期の報告会を昨年10月1日に、下半期の報告会を本年3月4日に行った。

1988年度上半期遺跡調査発表会概要

1. 丘の公園遺跡群 北巨摩郡高根町所在

先土器時代から歴史時代に至る9カ所の遺跡が確認された。検出された遺物は先土器時代石器、縄文・弥生・古墳・中世各時代の土器、歴史時代の鉄鏃などがあり、遺構は、先土器時代の集落址、縄文時代の陥ち穴などがある。

2. 後田遺跡 姬崎市所在

縄文時代中期の住居址3軒・配石遺構2基、古墳時代の住居址2軒、平安時代の住居址8軒・掘立柱建物址1棟が検出された。

3. 上野遺跡 西八代郡三珠町所在

縄文時代中期住居址1軒・土壙2基、弥生時代後期住居址10軒、古墳時代前期住居址3軒、方形周溝墓2基、円形周溝墓1基、中～近世土葬墓15基などが検出された。

4. 妻ノ神遺跡 北巨摩郡高根町所在

近世末～近代初頭にかけての土壙墓29基などが検出された。

1988年度下半期遺跡調査発表会概要

1. 京原遺跡 東八代郡境川村所在

縄文時代前期の住居址3軒・土壙4基・住居に伴う土壙5基が検出された。

2. 桜井畠遺跡 甲府市所在

A地区において、古墳時代の方形周溝墓3基、奈良～平安時代の住居址5軒・竪穴状遺構1基・溝3本・瓦窯遺構1基、中世以降の竪穴状遺構1基・掘立柱建物址1軒・土壙墓5基・溝8本が検出された。B地区において、古墳時代の住居址4軒・奈良時代の住居址2軒、平安時代の住居址11軒・穴列2本などが検出された。

3. 捜ノ内遺跡 東八代郡八代町所在

縄文時代中期の埋甕1基、古墳時代の住居址10軒、奈良時代の住居址8軒、平安時代の住居址16軒、時期不明の住居址6軒、中世～近世の掘立柱建物址1棟、土壙4基などが検出された。

4. 小和田館跡 北巨摩郡長坂町所在

中世の柱穴群・薬研堀・地下式壙6基・井戸2基・集石4基・溝・土壙、平安時代の住居址などが検出された。

下半期発表会においては、遺跡報告に加えて「本年度県内埋蔵文化財の調査と保護」についての発表が、県教育庁文化課担当者から行われている。

II 各遺跡の調査概要

天狗沢窯跡

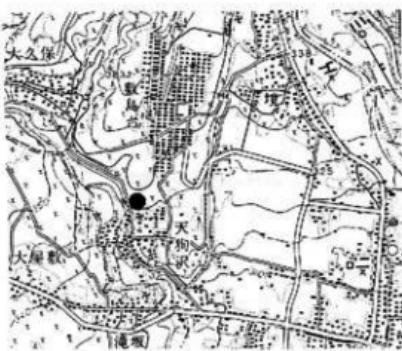
所 在 地 中巨摩郡數島町天狗沢字北川
事 業 名 生産遺跡詳細分布調査（第2年次）
調査期間 1988年5月11日～6月8日
発掘担当者 末木 健
調査面積 50m²

本調査は文化庁から補助金を受けて、県内の窯跡の分布を調べているもので、本年は2年次にあたる。本年は天狗沢窯跡のほかに、

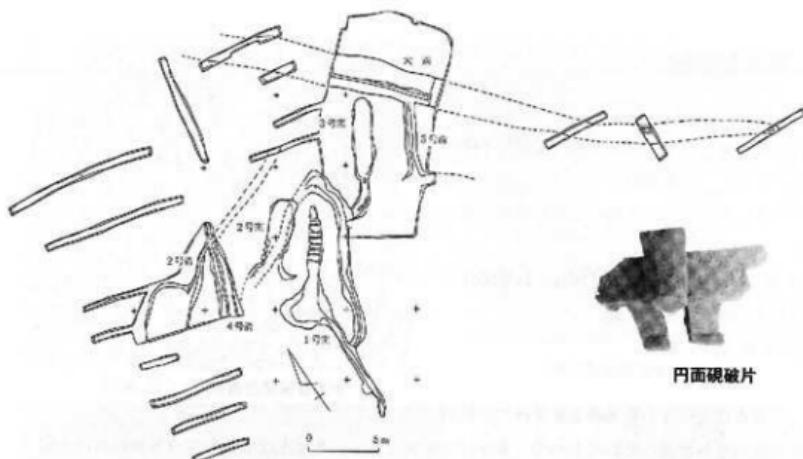
甲府市上土器窯跡、双葉町宇津谷窯跡、須玉町小倉窯跡を調査している。

天狗沢窯跡は、甲府市の西側に位置する數島町天狗沢にあり、町教育委員会による1986年12月の試掘調査を手始めに、1987年に第1次調査、1988年に第2次調査が行われている。そこでは1号～3号の窯跡が発掘されているが、窯跡全体の規模・範囲が明確ではなかったので、これを明らかにするために、県教育委員会が範囲確認とあわせた詳細分布調査を行った。この結果、現在確認できる窯は3基であり、窯跡群の北側には地下水や雨水から窯を保護している大きな溝が発見された。この地区的調査は町分であるが、大溝は最大幅2.5m、最大の深さ1.5mほどで、北側に行くほど広く深く、反対の南側では逆に、幅1m、深さ0.2m程度になる。大溝の北端は検出されていないが、ほぼ直線的に伸びていると推定される。

窯址群西側の分布調査・範囲確認調査によって、2号窯の西側からは多量の瓦・須恵器・木炭・灰・焼土・壁体が捨てられた2号溝が検出されている。この2号溝は3号窯の西側の大溝を起点に、そこから南西方向に掘られており、幅0.5m、深さ0.4mの断面V字形をした溝であるが、末端部分では幅3m、長さ4mの長方形に広がっており、この部分から多量の遺物が出土している。出土遺物は前述したが、軒丸瓦・須恵器製円面鏡・玉縁式丸瓦破片が特筆すべきものである。



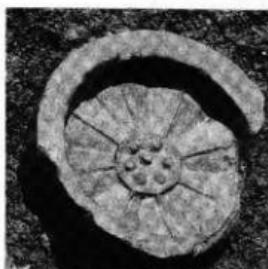
天狗沢窯跡位置図 (1/25,000)



凹面砚破片



須恵器高环脚部



軒丸瓦



2号溝全景

宇津谷窯跡

所 在 地 北巨摩郡双葉町宇津谷字峠の腰1314
事 業 名 生産遺跡詳細分布調査（第2年次）
調 査 期 間 1988年11月16日～11月30日
発掘担当者 末木 錠
調 査 面 積 50m²



宇津谷窯跡位置図 (1/25,000)

本調査は文化庁から補助金を受けて、県内

の窯跡の分布を調べているもので、本年は2年次である。2年次は双葉町宇津谷窯跡のほかに、甲府市上土器窯跡、敷島町天狗沢窯跡、須玉町小倉窯跡を調査している。

遺跡は茅ヶ岳裾野の標高380m付近の小さな丘の南斜面に立地している。窯跡の南側と西側は道路によって削られ、高さ20cm～120cmの断面が露出している。この断面には灰・焼土・壁体・甕などの破片が互層になって積み重なっており、灰原の可能性があることが推定された。そこで、この断面の清掃作業を行い、実測と写真撮影を行った。窯本体は等高線に直交するように築かれており、幅1.2m高さ2m弱の登り窯である。地山を掘り込み、窯底とし、粘土で壁と天井を築き上げたもので、窯の南側の外側には、石を積んで窯を保護している。周辺の灰原の状態から、連房式の窯と考えて発掘調査を実施したが、トレンチ1本のデーターでは窯の全体構造は明らかではない。あるいは連房式の可能性は低いかもしれない。

出土遺物には素焼きの甕・浅鉢・すり鉢などがあり、近世の日用雑器を焼いた窯である。双葉町宇津谷の天香山妙善寺所有文書に、江戸時代の文化・文政年間の年貢書き上げ帳が残っているが、この中に宇津谷村甕焼き運上の記事が見える。文化10年から文政8年までの14年間の甕焼き運上と、文政9年の免除にかかる文書が、地元の郷土研究家の保坂吾良吉氏によって明らかにされている。おそらく、この年貢書き上げ帳にあらわれた窯が本窯であろう。



西側断面清掃風景



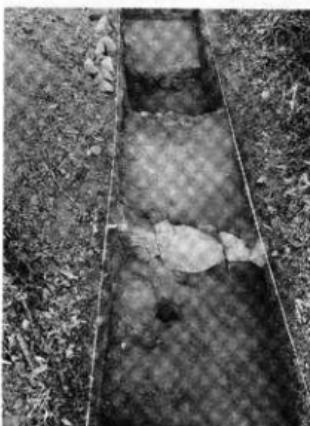
南側断面清掃風景



西側断面灰原堆積状況



印形土製品出土状況



トレンチ内窯址発掘状況



魚形土製品出土状況

上土器遺跡

所 在 地 甲府市桜井町上土器273番地
事 業 名 生産遺跡詳細分布調査（第2年次）
調 査 期 間 1988年12月1日～12月10日
発掘担当者 末木 健
調 査 面 積 20m²

本調査は文化庁から補助金を受けて、県内の窯跡の分布を調べているもので、本年は2

年次である。2年次は甲府市上土器窯跡のほかに、數島町天狗沢窯跡、双葉町字津谷窯跡、須玉町小倉窯跡を調査している。

本遺跡は、甲府市東部の桜井町にあり、標高276mの平坦地に立地している。遺跡東方400mには、白鳳時代の瓦を焼いたと想定される川田窯跡をはじめ、土器生産に関する集落址があり、古墳時代～平安時代の生産遺跡群として注目されている。なお、上土器窯跡には数基の窯が存在したと思われ、上土器254番地では甲府市市史編さん委員会が1987年11月から12月にかけて発掘調査を実施し、窯跡の灰原を1カ所発見している。

本窯址は、甲府市の調査した窯の灰原より70～80m西側のぶどう園中にある。表土は5cm程度で瓦・土師器・焼土・灰・壁体が散き詰められたような面が検出される。その規模はおよそ6m位である。焼土の下は暗灰色の砂質土となるが、この中からも壁体・瓦・土師器などが出土している。地山は灰白色粘土層であり、トレンチ調査の結果、南側に溝が走っている可能性があった。窯はかつて微高地に立地していたのであろうが、土採取によって削平されてしまい、灰原だけが残ったと想定できる。

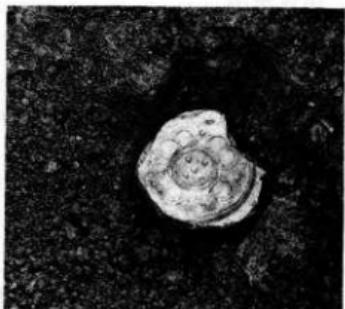
出土遺物は、甲斐国分寺の軒丸瓦と軒平瓦が出土しているが、このほかに平安時代の軒丸瓦も出土しており、伴出土飾器もすべて平安時代に属している。



上土器遺跡位置図 (1/25,000)



発掘風景



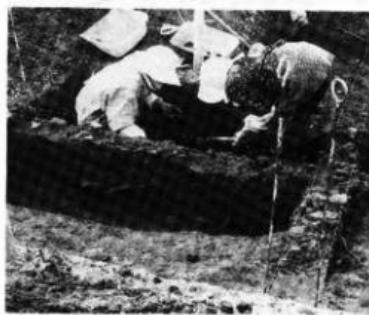
軒丸瓦出土状況



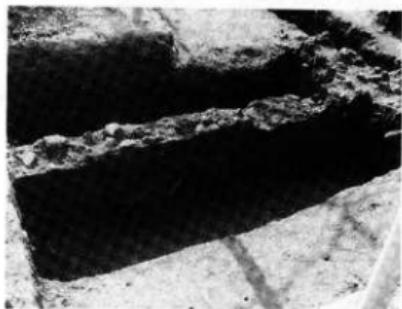
瓦出土状況全景



軒丸瓦出土状況



灰原断面



灰原断面

二二 小倉窯跡

所 在 地 北巨摩郡須玉町小倉2724他
事 業 所 生産遺跡詳細分布調査（第2
年次）
調 査 期 間 1988年12月12日～12月23日
発掘担当者 末木 健
調 査 面 積 50m²



小倉窯跡位置図 (1/25,000)

本調査は文化庁から補助金を受けて、県内の窯跡の分布を調べているもので、本年は2年次である。2年次は須玉町小倉窯跡のほかに、甲府市上土器窯跡、敷島町天狗沢窯跡、双葉町宇津谷窯跡を調査している。

本遺跡は須玉川の左岸、標高620mの段丘上に位置する。滋賀県甲賀郡信楽町で生まれた奥田信斎が明治後半頃築いた窯跡といわれ、養子の奥田雄蔵の二代が2基の窯を焼き、壺・壺・すり鉢・置物・徳久利・土管などを焼いた。信斎の墓は近くの見本寺にある。

調査は、桑畑の株の間にトレントを9本設定し、窯の位置確認を行うことから開始した。1号窯は2・3トレントの中央部分から発見されているが、窯底が一部残っているのみで、本体は削平されている。窯東側には水路があり、そのうえには陶器・素焼製品の破片が多量に廃棄されている。かつては窯を高く造り、周囲を掘り下げていたものと思われる。

2号窯は1号窯の西側で段丘の縁から発見された。窯の焚口は崖下に造られたと思われ、既に崩落している可能性がある。危険であったため調査はしていない。2m×3mの窯内部からは焼台などの窯道具をはじめ、徳久利や壺破片などが出土している。窯の南側は掘りくぼめられて、不良品の捨て場となっている。いわゆる灰原で、多量の陶器・素焼き土器が出土している。2号窯の南側には壺などを埋設した遺構があるが、生産活動にどのように関わっていた遺構かは不明である。

本地域は幕末ないし明治初期に窯業が盛んになったものと思われる。信斎窯以前に窯があり、壺・置物などの他に、瓦生産なども行われていたと言う。これらの窯の位置はすべてが明らかになっている訳ではない。



遗迹远景



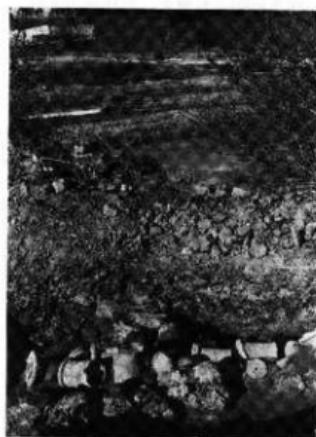
发掘风景



2号窑发掘风景



2号窑内窑道具出土状况



2号窑



2号窑南遗物出土状况

桜井畠遺跡 A 地区

所 在 地 甲府市和戸町桜井畠1303番地
事 業 名 甲府市労働者福祉センター建設事業
調査期間 1988年4月18~12月12日
発掘担当者 板本美夫・中山誠二
調査面積 5800m²



桜井畠遺跡位置図 (1/25,000)

桜井畠遺跡は甲府盆地北縁の八人山、大藏
筋寺山の南方に位置し、大山沢川、平等川によって形成された扇状地と沖積地の中の最高地上標高約264mの地点に立地する。

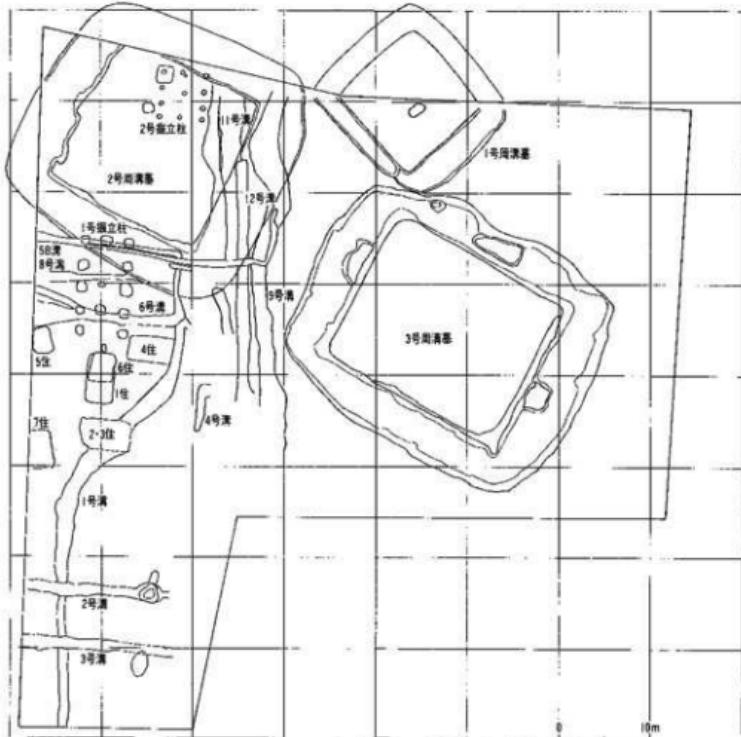
調査の結果、古墳時代前期の方形周溝墓3基、奈良～平安時代の堅穴住居址5軒、堅穴状遺構1基、水路6本、掘立柱建物址1棟、瓦溜め遺構1基、中世以降の堅穴状遺構1基、掘立柱建物址1棟、水路5本、土壙墓5基が発見されている。この他遺構は検出されなかったが、縄文時代中期の土器片や石器が数点出土した。

古墳時代前期の方形周溝墓は3基確認されているが、完全にその全容が捉えられたものは1基のみで、他の2基は調査区外に広がっている。1号方形周溝墓は東西16m、南北18m（いざれも推定）の長方形プランを呈するもので、周溝の幅約2.5m、深さ約50cmを測る。台状部中央付近に土壙が1基確認されているが、埋葬主体部であるか否か明確ではない。2号方形周溝墓は、1号の北西地域に広がり、東西28m（推定）、南北28.5mのはば正方形を呈すると考えられる。周溝幅5~6m、深さ約40cmを測る。台状部には主体施設は確認されていない。3号方形周溝墓は、東西27.5m、南北33.4mの長方形プランを呈し、長軸方向はN-40°-Wを指す。周溝は台状部を全周する形態で、南北の周溝内に造り出し状の突出部を伴う。周溝幅4~6m、深さ1mを測る。台状部盛り土基底部はわずかに残存するが、主体部は発見されていない。3基の周溝内からは、壺、甕、高杯、壺などが出土しており、4世紀後半から5世紀中葉にかけて築造されたと考えられる。

奈良～平安時代の遺構は、調査区西側に集中し、9・10号溝とした水路を境界にその西側に展開する。堅穴住居址と認定した遺構は、平面形態が長方形を呈するものが多く、確認面以下の掘り込みは非常に浅い。住居址床面よりフイゴの羽口や鉄滓が検出されており、工房に関わる遺構とも考えられる。1号住居址内では小型の瓦を伏せた瓦敷施設が検出され、2・3号住居址からも瓦組のカマドとその脇に瓦敷きの施設を伴う。1号掘立柱建物址は2間×4間の建物である。柱穴は一辺1m前後の方形を呈し、一つの柱穴内から小型の灯明皿が20個体以上出土している。この建物址の西方から検出された小型の堅穴状遺構からは、灯明皿50個体以上と縁釉の香炉蓋の

破片、琥珀の玉1点が出土している。瓦溜め遺構は 2×3 m程の複数に多数の平瓦と丸瓦が重なる状態で出土している。また、1号溝や2号周溝の溝内より直径7.5cmの小型の軒丸瓦やそれに伴う軒平瓦、瓦の本体破片が散在的に発見された。この他遺構に伴うものではないが、甲斐国分寺で使用されたと同様の八葉草弁軒丸瓦が1点出土している。これらの遺構・遺物は、B地区の集落とは対称的に特異的な内容を持っており、遺跡の性格をめぐらして今後検討が必要な課題となる。

中世以降の水路は、11号・12号溝が平安期の溝に並行して南北に延び、ほぼ直角に小水路が數本分岐する。これらの溝からは内耳土器や多量の陶器片が出上している。調査区北側の掘立柱建物址は2間×3間のもので、柱穴規模も1号掘立柱に比べて小規模である。堅穴状造構は2×2mの掘り込みを持ち、覆土内より上師質土器や藤石状の黒色の小石が20点余り出土している。該期の土塚墓は調査区西側に散在的に確認されているが、最も残りの良好な1号墓は頭蓋骨、歯、大腿骨等の一部が上師質土器と六道鏡とともに発見されている。



桜井畠遺跡 A 地区方形周溝基

桜井畠遺跡B地区

所 在 地	甲府市川田町517番地ほか	発掘担当者	坂本美夫・中山誠二
事 業 名	山梨県立青少年会館建設事業	調査面積	1500m ²
調査期間	1988年5月2日～7月14日		

△地区の東方約100m余りの地点に位置する。

調査の結果検出された遺構は、堅穴住居址18軒、柱穴列2本、堅穴状遺構1基などである。堅穴住居址の時期は、古墳時代前期以前1軒、古墳時代後期3軒、奈良時代2軒、平安時代11軒、不明1軒である。

11号住は、南側半分を9号住によって切られ、確認面からの掘り込みが浅いために、遺構の残存状況が極めて悪い。伴出する遺物はないが、住居址中央部に壇と考えられる焼土面が確認され、周囲からも弥生時代後期の土器片が出土していることから、弥生後期ないしは古墳前期に帰属すると考えられる。古墳時代後期の遺構は、1住、5住、6住の3軒で、北カマドを有する。出土遺物は3軒共に比較的多く、上器は甕、高杯、壺などで構成される。1号住南東コーナーからは、ムシロ縫の重りに使用されたと考えられる細長い縫が、集中して発見された。奈良時代の住居址は7号住、9号住の2軒で、ほぼ南北方向に主軸をあわせて並んで検出されている。住居址の規模は、7号住で南北8.4m、東西7.6m、9号住で南北7.4m、東西7.8mと他の時期の住居址と比較して大型である。いずれも北側中央部にカマドを持ち、直徑1m前後の柱穴が4本検出されている。出土遺物は、奈良時代の土師器や須恵器、該期の編年資料としても重要である。平安時代の住居址は、調査区のほぼ全体に散在的に認められているが、13・15～18号住は重複関係を持つ。カマドは東壁ないしは南東コーナーに設置されており、設置箇所が時期的に変遷する可能性もある。本地区住居址内のカマドは袖石の確認される例はわずかで、基本的には粘土のみによって構築されるカマドである。出土遺物は土師器が大半を占めるが、16号住より灰釉の淨瓶ないしは多嘴壺の破片が存在する。

本遺跡周辺地域は、『和名抄』の山梨郡表門郷が所在した地域に比定され、隣接する人坪遺跡からそれを裏付ける「甲斐国山型郡表門□」と刻書された皿が発見されている。このことから今回調査された集落址も同郷の一部をなす可能性が高く、その一資料となろう。

桜井畠遺跡C地区

所 在 地	甲府市和戸町桜井畠1230番地ほか	事 業 名	甲府勤労者総合福祉センター建設事業
-------	-------------------	-------	-------------------

調査期間 1989年2月6日～2月28日

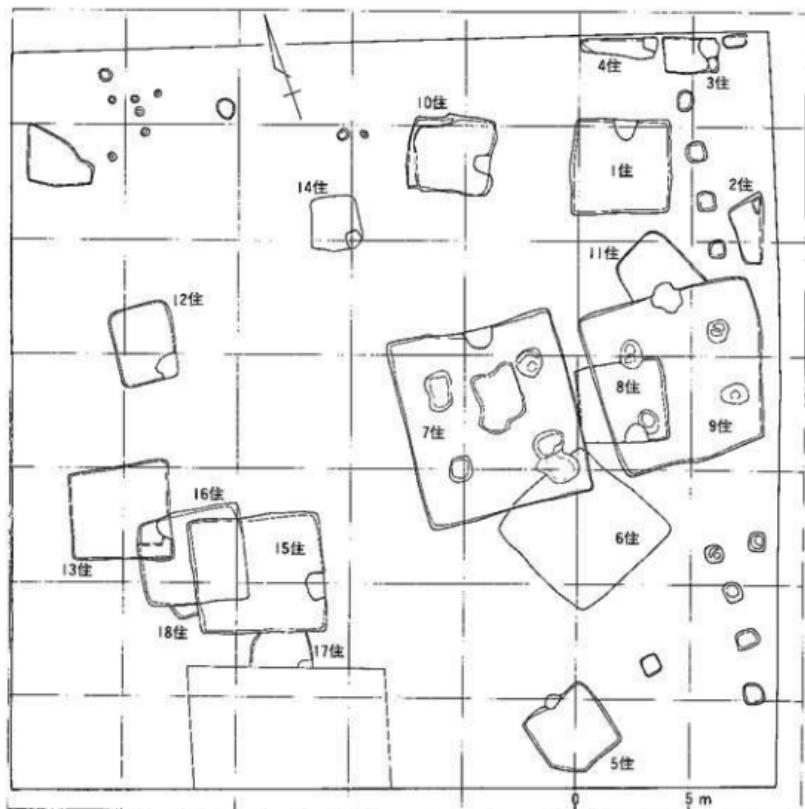
調査面積 3800m²

調査担当者 坂本美大・中山誠二

A地区の西側地域の調査区をC地区とし、試掘および一部本調査を実施した。

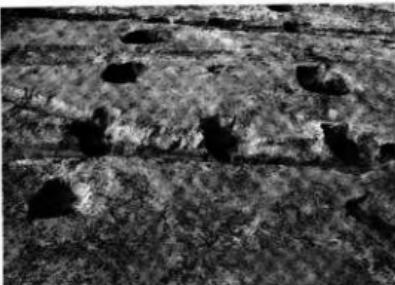
本調査区は、西側に向けてわずかに傾斜し、微高地から低地に落ちる部分にあたる。この地域には、2×2mのグリッドを16カ所、トレンチ2カ所を設定し、試掘調査を実施した。表土の堆積土は西側傾斜面では非常に薄く、表土より10cmほどで造構確認面に到達する。試掘グリッド内では溝状造構、住居址、ピット等が確認されている。

本調査区は、C地区南側の約150m²の地域で、近世の集石遺構が1カ所確認された。

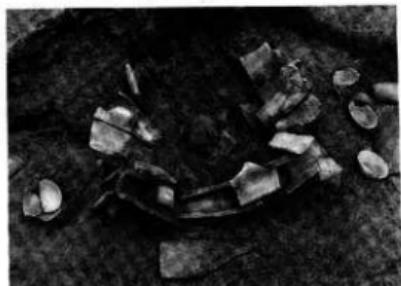




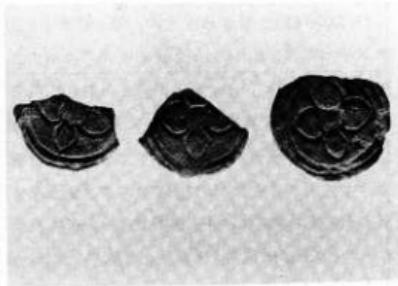
桜井畠遺跡 A 地区方形周溝墓



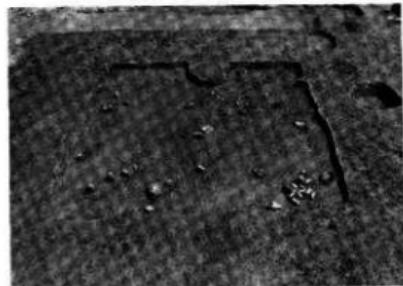
桜井畠遺跡 A 地区 1 号据立柱建物址



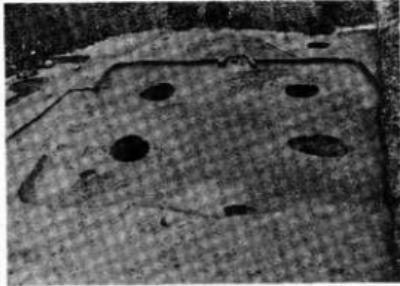
桜井畠遺跡 A 地区 2 号住瓦組力マド



桜井畠遺跡 A 地区出土小型軒丸瓦



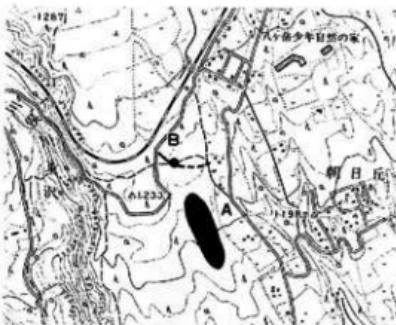
桜井畠遺跡 B 地区 1 号住居址



桜井畠遺跡 B 地区 9 号住居址

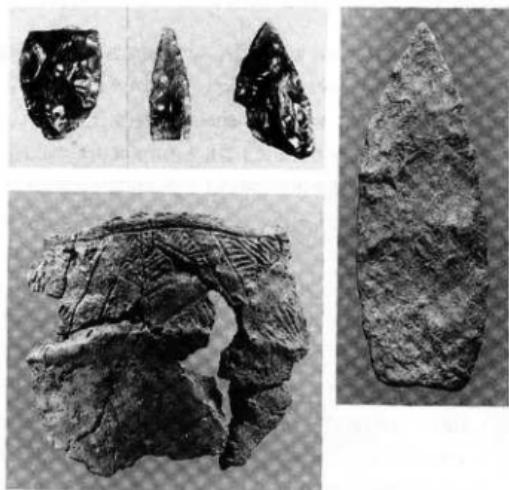
丘の公園第5遺跡

所在地 北巨摩郡高根町清里
事業名 「丘の公園」建設事業
調査期間 1988年5月16日～9月21日
発掘担当者 保坂康夫
調査面積 1,100m²



A : 丘の公園第5遺跡
B : 丘の公園第6遺跡(実線は溝調査部分、破線は溝埋土保存部分)(1/25,000)

立地は、南北に帯状に連なる、ローム層の痩せ尾根状の高地で、その平坦面、西側緩斜面、谷底平地との接点にかけて遺物・遺構が出土した。出土遺物は、縄文時代草創期の石槍、縄文時代早・前・後期の土器や石器、弥生時代後期、古墳時代前期の土器、平安時代の鐵鎌などである。遺構は、縄文時代の陥し穴10基、中世の陥し穴12基、中世の炭焼き穴2基である。本遺跡の調査中に、北方約500mの所にある、溝の調査を行った。この溝は、北西から南東へ、高地を横切って、谷と谷をつなぐように作られていて、現地表面で確認できる。調査の結果、溝の中から石炭ガラが多量に出土し、国鉄小海線の開通以降も機能していたと推定される。溝の調査過程で、丘の公園第6遺跡を確認した。1.5m四方の試掘坑を、5m間隔で、19ヵ所設定し、その範囲を確認した。その結果、先土器時代から縄文時代の槍先形尖頭器の遺跡であることが判明した。その範囲は、溝内の遺物出土地点を中心として、直径10m程度の遺跡であることを確認した。なお、溝は、その東半分を、丘の公園第6遺跡は全体を、埋土保存した。



丘の公園第5遺跡(右・下)、第6遺跡(左上)出土遺跡

身洗沢遺跡（試掘）

所 在 地 東八代郡八代町南字身洗沢45
61番地の2他

事 業 名 県道石和石橋線建設事業

調査期間 1988年6月6日～16日

発掘担当者 森和敏

調査面積 3,000m²

身洗沢遺跡は甲府盆地東部に展開する浅川扇状地扇端に位置する。笛吹川が西900mに、その支流である天川が北700mにあって、ここ地層は浅川と笛吹川による堆積の互層になっているといわれる。

この100m上方には、中央自動車道建設の際に発掘した假ノ下遺跡が、また下方にもかつて弥生時代末～古墳時代初頭の上器が出土したことがあるので、身洗沢遺跡と関連する遺跡と考えよいであろう。北東800mには前期前方後円墳である狐塚古墳もあり、ここがこの時期における浅川扇状地扇端開発の一拠点となったものと考えられる。今回、試掘したトレンチから採取した土を分析した結果、稻のプランツ・オバールの検出状況によって、古い水田址が存在する可能性があることがわかった。この結果と関連すると思われる条里型地割が、乱れてはいるが付近一帯にみられる。

今回は、道路建設に先立って行った試掘である。建設予定地の幅12m、長さ250mの間に25m間隔で、2m×3mのトレンチによって10ヶ所を試掘した。

1号トレンチで、地表下40～50cmの黒褐色腐食土層中に、掘込みを検出し、この覆土から古墳時代初期に比定される五領式土器片と木片が集中して出土した。2号トレンチでは、地表下35cmで、掘込みを2ヶ所検出し、その1ヶ所は住居址と思われるものであった。この掘込面から手握小型壺と五領式土器片が出土した。5号トレンチからは、地表下85cm～1mの黒色細砂層（第Ⅳ層）で五領式土器片が多量に出土した。この下20cm～40cmにある黒色腐食土層（第Ⅴ層）で、掘込を検出し、覆土から弥生時代末期の上器片が集中して多量に出土し、周囲には運ばれて来たと考えられる石と木片があった。この遺跡には古い水田址があることが予想されたので、5号トレンチの各地層から土を採取し、プランツ・オバール含有量を分析したところ次の結果を得た。第2a層上層で8.256t、第2b層上層で6.99t、第3a層上層で3.449t、第3b層上層で1.348t、古墳時代堆積層である第Ⅳ層上層で1.734tを検出した。原体1t（検出されたプランツ・オバールから、地層厚1cm、10a当たりに含まれた原体を換算した値）以上あると水田址があつたことが経験から推定できるといわれている（分析は山梨文化財研究所 外山秀一氏による）。いずれのトレンチでも約40cmで水が浸透していく。



身洗沢遺跡位置図（1/25,000）

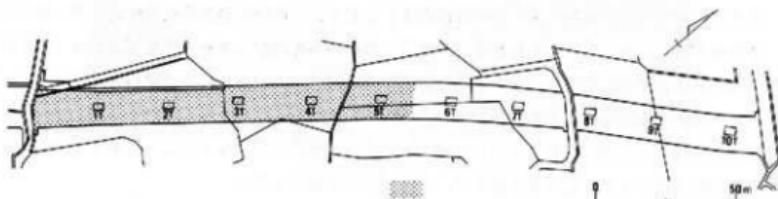
以上の結果から第1トレンチから第5トレンチ北側までの約130mの間が弥生時代から平安時代くらいまでの遺跡であることが確認できた。



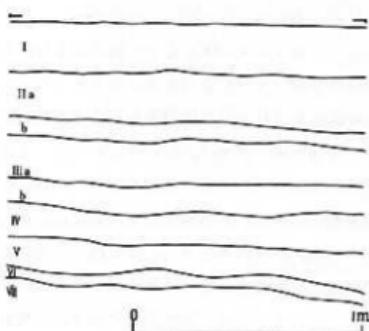
身洗沢遺跡近景



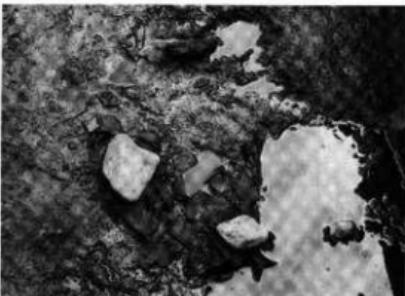
身洗沢遺跡第2トレンチ出土土器



身洗沢遺跡トレンチ設定図 (1/1,000)



身洗沢遺跡第5トレンチ地層図



身洗沢遺跡第5トレンチ土器出土状態

妻ノ神遺跡

所在地 北巨摩郡高根町字妻ノ神
事業名 八ヶ岳広域農道建設工事
調査期間 1988年6月6日～7月21日
発掘担当者 八巻寅志夫
調査面積 2000m²

この地域は中世に村山郷と呼ばれたが、角川書店の『地名辞典』には、天正十年の徳川家印判状で「村山郷武百貫文、日向大和守

(玄徳斎宗栄)跡を小尾祐光に充て行ったことが記されている。堤村が中世文書に現れる時期もこの天正十年で、同人に堤之郷五貫文を充て行っている。現在の高根町内に位置する諸村は、江戸時代に入ると急激に石高が増加してきている。この石高急増の原因は、六カ村堰の開削であるといわれている。堤村の中をこの堰が南下しており、この村の農業生産や住民生活に極めて重要な役割をもっていたと考えられる。また、この村の名称の起りを『甲斐国志』は「村山村より分かれ、新郷すると云ふ。・・・村北に大堤の形存す。」とある。本遺跡のある字妻ノ神の東北には旭山に向かって土手の跡が一部残っている。このことから推測すると、灌漑溜井として、旭山と堤山からの湧水を蓄えるために築かれたが、用水路の開削などによって増水が図られたのでこの貯水池が不要となり水田化した。この面積が6haである。

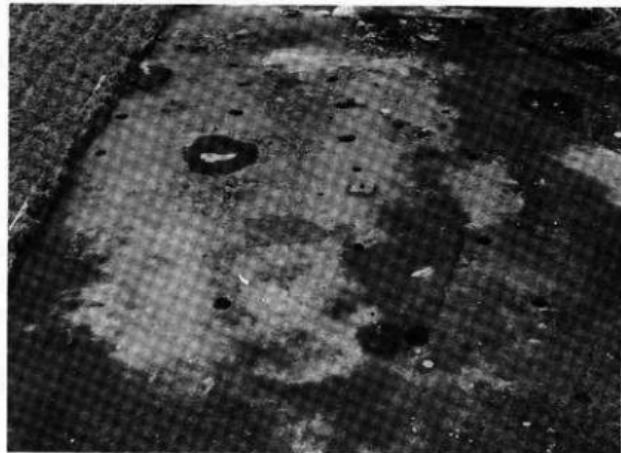
調査は岐北土地改良事務所と埋蔵文化財センターが4月に協議し、春の農作業が落ち着く6月から開始し、8月上旬に終了することとした。5月に入り高根町教育委員会に調査に先立っての作業員の確保と地元に対しての連絡を依頼した。重機による表土剥離に入る前に、地中レーダーによる調査を行い、その結果と試掘調査の結果を併せて遺構の状況の把握に努めた。

調査区を道路によって大きく3区に分け、東からA・B・C・D区とした。調査が進むに従って遺構が希薄であることが判明したため、更に西側の桑畠(E区)も調査することとした。人力による妻上耕作業は、6月6日から行い、遺構の確認がなされ次第遺構調査を行った。試掘調査で確認していた以上に水田造成時の削平が著しく、遺構の残存状況は良好ではなかった。A区では遺物の検出はあるものの遺構については、既に殆どが削平されている状況であった。B区についても東側は礫を含む客土が1mを越える厚さで堆積しており、この客土の下からは古い水田面が検出されたが、水が涌くため調査は継続できなかった。C区の水田下からは、溝状の遺構と柱穴(江戸時代掘立柱建物址)が検出された。この区域は試掘調査によって住居址が確認されているところであるが、この検出された住居址(平安時代)のプランは、偶然僅かに削平から免れた住居址南西隅部分であったことが明らかとなった。D区では焼土が部分的に検出されたが、伴出する遺物から開田時のものであり、時期は昭和初年であると考えられる。E区の調査は桑の刈り



妻ノ神遺跡位置図 (1/25,000)

取りと抜根作業から行った。この作業終了時点から試掘調査を実施して、縄文時代中期と平安時代の遺物が検出された。掘り下げるとこの水田からの水が涌いてくる状況であった。この調査区の西側から石が詰まった土壌（時期不明）が検出されている。



妻ノ神遺跡掘立柱建物址



妻ノ神遺跡発掘調査風景

水呑場北遺跡

所在 地 西八代郡三珠町大塚字水呑場

2628-1他

事 業 名 箕吹川農業水利事業による管
水路埋設工事

調査期間 1988年7月18日～9月5日

調査面積 375m²

発掘担当者 長沢宏昌



水呑場北遺跡位置図 (1/25,000)

水呑場遺跡は、曾根丘陵の西端に当たる三珠町内の台地上、標高約370mに立地し、甲府盆地を見下ろす北東方向に張り出す尾根上に位置する。以前より、先土器時代の石器や縄文早期の押型文土器が採取されており、該期の遺構の存在が予想されていた。また、本遺跡の位置する大塚地区は大塚古墳をはじめ、前期から後期の古墳が点在することが知られており、古墳時代の遺構・遺物が確認されることも予想されていた。

今回の調査は、尾根の基部から先端部にかけて行ったものであるが、調査幅2.5mと狭いため、遺構については土壤以外は全掘できない状況であった。

調査の結果、住居址1軒、土壙13基、溝2基が確認された。住居址は床面下まで攪乱が及んでおり、遺物も出土していない。方形を呈し、柱穴内には根石がおかれてることから古墳時代以降の住居址と思われる。12基の土壙は、遺物が全く出土しなかったものもあるが、形状などから縄文時代に位置付けられるものがほとんどと思われる。確定なところでは、7号土壙は掘込みそのものは浅いものの、4点の土器片のうちの3点が押型文土器で、該期に位置付けて良いであろう。

3号土壙からは中期中葉の完形土器が横たわり、それを板状・円柱状の石が囲む状態で出土しているが、土器内部には下半部にびっしりと1cm程の厚さで球根類のオコゲが付着していた。このような球根類のオコゲの確認例は少なく本県花鳥山遺跡や福井県島浜貝塚、長野県判ノ木山西遺跡などで確認されているだけである。球根類そのものの出土例もやはり少なく花鳥山遺跡やヒガシバナ科のキツネカミソリとされた平塚市上ノ入遺跡など数例あるに過ぎない。同じ球根類でもニリ属とネギ属では利用方法も全く異なり、本資料の分析は重要な意味をもつことになる。当時の食生活を考えるうえで貴重な資料となろう。

溝のうちの1基は、人頭大の穂とともに6世紀後半代の土器器・須恵器がまとまって出土しており、古墳の周溝である可能性が強い。今回の調査では古墳そのものは確認されておらず、また付近にマウンドも見当たらないが、すでに削平された当地方に点在する後期古墳の周溝と思われる。



水呑場北遺跡遠影

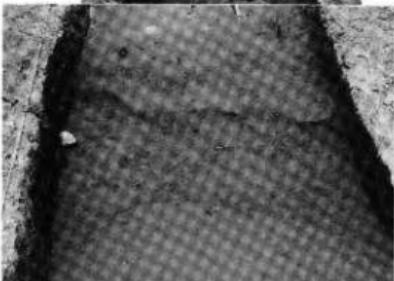


水呑場北遺跡全景

↓3号土塙遺物出土状態



→1号溝



1号溝遺物出土状態



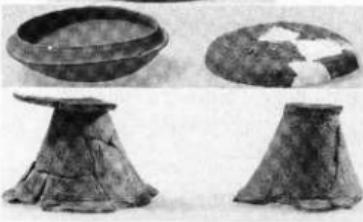
3号土塙出土土器



→1号溝出土土器



3号土塙出土土器内オコゲ



鍋弦塚

所在地 東八代郡中道町下向山字東山

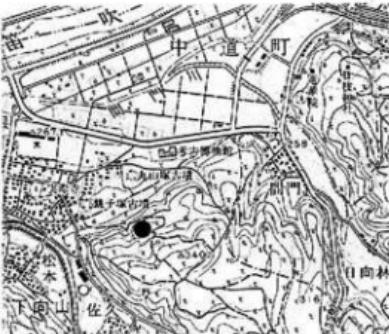
1447-1他

事業名 甲斐風土記の丘公園整備

調査期間 1988年8月23日～10月21日

発掘担当者 末木 健

調査面積 5000m²

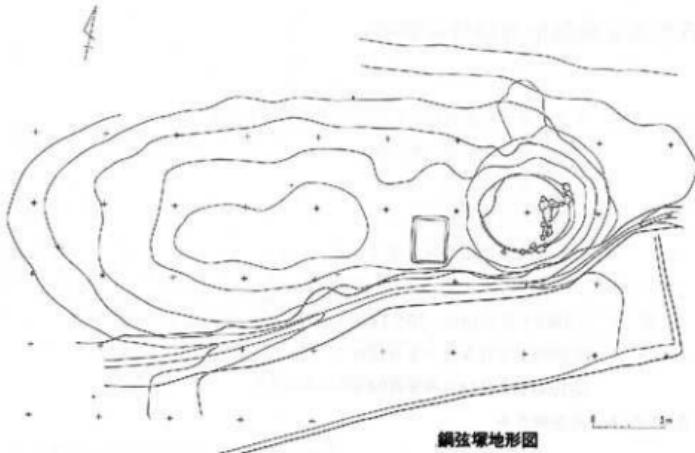


鍋弦塚遺跡位置図 (1/25,000)

甲府盆地の南東縁に展開する曾根丘陵の一画、東山の北斜面にテラスがあり、この上に明治40年に発掘調査された鍋弦塚がある。将来の公園整備に備え、墳丘の規模・構造を把握するための確認調査である。現況は山林となっており、墳丘上には石碑が2基建てられている。このうちの1基は明治41年に建てられた『東山の碑』である。発掘経過と発見された壺について、当時の見解を記したものである。墳丘の規模は直径10mの円形をしており、高さ1.5mで、墳頂は平坦である。発掘調査開始前に地形測量を行ったところ、鍋弦塚西側に30mほど平坦面が伸びており、一見、前方後円墳のような形態がうかがえた。そこで鍋弦塚墳丘中央に起点を置き、5mグリッドを設定し、前方部の表土除去、および5mごとに幅30cmのトレンチを設定した。この結果、推定前方部からは表土直下に地山が検出され、本来の地形であることが判明した。したがって、前方後円墳の可能性は全く無くなったのである。

鍋弦塚は石碑移転後に、表土除去を行い、トレンチを十字に設定して掘り下げたところ、旧表土の黒色土の上に、黄色土の版築が見られた。旧表土中には古墳時代前期の土師器が若干含まれていたが、遺構にともなうものとは考えられない。墳丘北側表土中には、土師質土器破片が散布しており、これらが鍋弦塚に伴うものか、あるいは塚の隣にある稻荷神社に伴うものか明らかではない。墳丘上の遺構では、中央部に漏斗状のピットが発見された。直径1.2m、深さ0.8mである。このピットが、明治40年に壺を発掘した地点かもしれないが、推測の域を出ない。

なお、鍋弦塚の位置しているテラスより一段下の平坦面について、遺跡の確認のためトレンチを2本設定した。遺構は確認できなかったが、遺物は散布しており、縄文時代の石錐、弥生時代中期土器片、土師器片などが出土した。



鋼弦塚地形図



発掘風景



墳丘列石状況



鋼弦塚西側トレンチ設定状況



トレンチ発掘状況

八ヶ岳東南麓他遺跡分布調査

調査対象地域 ①北巨摩郡小淵沢町・長坂町・大泉村・高根町

②中巨摩郡梯形町・甲西町

③南巨摩郡身延町

事業名 ①八ヶ岳広域農道建設設計画

②富士川西部広域農道建設設計画

③国道52号線身延バイパス建設設計画

調査期間 ①1988年9月19日～10月17日

②1989年3月6日～3月10日

③1989年2月14日～2月24日

調査担当者 八巻與志夫

広域農道建設設計画が八ヶ岳南麓と富士川西部で進められているが、水田地帯や山林部分では表採が不可能のため、買収交渉が終わった場所を年次計画で試掘調査を行う計画で、実施している。国道52号線の改良工事である身延バイパス建設設計画では用地買収が一部完了したため、試掘調査を実施した。

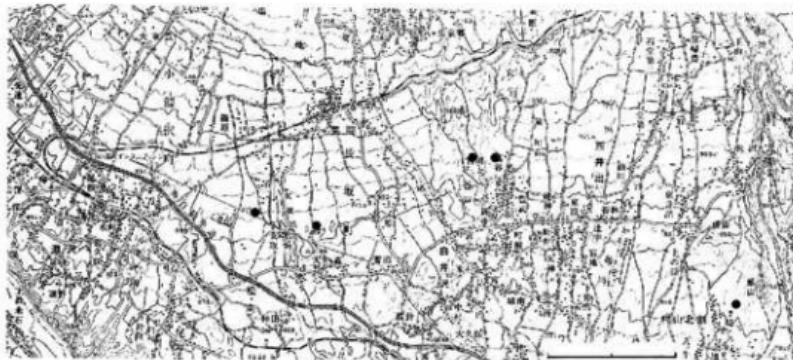
① 八ヶ岳広域農道建設予定地の試掘調査

●1988年9月から小淵沢町上條尾地内の牧草地と山林内に、2m四方の試掘坑を7カ所設定して、地山まで掘り下げた。その結果牧草地の北側の試掘坑で平安時代の甕と壺の破片が2片出土した。出土した上層は、牧草地造成で埋められた上であり、周辺に遺跡が存在していたが、客土の厚さから既に遺跡は、消滅しているものと考えられる。

●長坂町大井ヶ森地内の諏訪神社の北側山林で古柏川右岸を中心に昨年から引き続いて調査を行った。神社の北側の尾根上には4カ所の試掘坑を設定した。ここでは表土は浅く、その下にはローム層が厚く堆積しており、遺物遺構の検出はなかった。古柏川の右岸の平地には4カ所の試掘坑を設定した。ここでは一部ローム層の堆積は見られたが、黒色土が厚く堆積しており、その下は岩盤であった。この黒色土層中からは、縄文時代前期の土器片と燃碳石のポイント、石鏃などか出土した。

●大泉村谷戸地内で調査を行ったが、対象地域は、宮川の西側山林と、東側の耕地であった。宮川の西側の尾根上の山林には、試掘坑を10カ所設定して調査を行った。表土は10cm程度で、この下に褐色土が30cm程度堆積している。この褐色土から縄文時代中期初頭を中心とする遺物が大量に出土した。

●高根町堤地内の山林で昨年に引き続いて試掘調査を実施した。この部分は、切り土となるたまごが40m以上あるので、試掘坑は東西に3～4カ所ずつで全体では27カ所設定した。この調査では、遺物遺構の検出はなかった。



八ヶ岳広域農道試掘調査

② 富士川西部広域農道路線予定地内分布調査

櫛形町から甲西町に至るルートで1989年3月に表探査を実施した。その結果櫛形町上野字宮の前付近の桑畑で縄文時代中期の遺跡が確認された。

③ 身延バイパス建設予定地の試掘調査

南巨摩郡身延町梅平地内の水田と宅地を対象にバイパス路線内の試掘調査を2月に実施した。用地買収が完了している約5,000m²を対象として、10カ所の試掘坑を設定したが、遺物や遺構は検出されなかった。



櫛形町上野地内宮の前遺跡位置図(1/25,000)



身延町梅平地内試掘調査位置図(1/25,000)

長田口遺跡

所 在 地 中巨摩郡柳形町平岡地内
事 業 名 富士川西部広域農道建設事業
調 査 期 間 1988年11月7日～12月23日
発掘担当者 出月洋文
調 査 面 積 600m²

長田口遺跡は、甲府盆地西縁の市之瀬台地上に立地する遺跡群の一つで、柳形町平岡の集落の東側に広がる畑地帯の中に、東西200m、南北500mの範囲に遺物散布の認められるものである。付近の標高は440m前後で、時代的には縄文時代から古墳時代にわたっている。

今回の調査は、この長田口遺跡の南端部分にあたる、幅約10m、長さ80mほどの範囲において実施した。調査区南側は、比高20mあまりの漆川の急崖となっている。

調査により明らかになった遺構としては、縄文時代中期の小堅穴遺構1軒、土壙1基、後期の遺物包含層、弥生時代後期から一部古墳時代初頭にかけての堅穴住居跡6軒があり、時期不明の溝状遺構も2カ所で確認されている。これらの遺構の大部分は調査区外にのびており、遺跡の広がりがあらためて理解される。また出土遺物については、縄文時代の土器・石器、弥生～古墳時代の土器が主で、遺物の量は全体的にさほど多くはないが、1、2の住居跡で弥生末のまとまった資料が得られている。



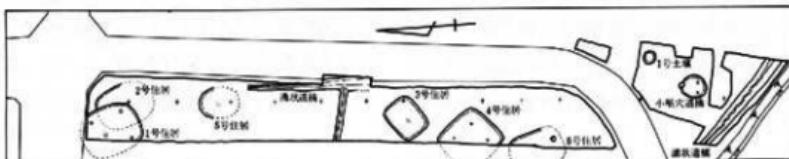
調査区北半



1号土壙



6号住居遺物出土状況



長田口遺跡全体図

東山南遺跡

所 在 地 東八代郡中道町下向山字東山7

4他

事 業 名 甲斐風土記の丘公園整備

調査期間 1989年1月10日～1月27日

発掘担当者 末木 健

面 積 3000m²

甲府盆地南東部に展開する曾根丘陵の一画、
東山最高地点の北斜面、標高340m付近に位



東山南遺跡位置図(1/25,000)

置する本遺跡は、1981年に、第1次発掘調査が行われ、古墳時代前期頃の円形周溝墓9基と方形周溝墓2基が発見されている。円形周溝墓は直径5～10mで、溝の中からは土師器や鉄製品が出士している。

今回の発掘調査は、1次調査地区の西側に位置しており、稻荷塚の南西側になる。公園内の管理用道路建設に先立ってトレンチによる遺跡確認調査を実施したが、遺構・遺物は発見できなかつた。



東山南遺跡発掘風景



トレンチ発掘状況

立石遺跡

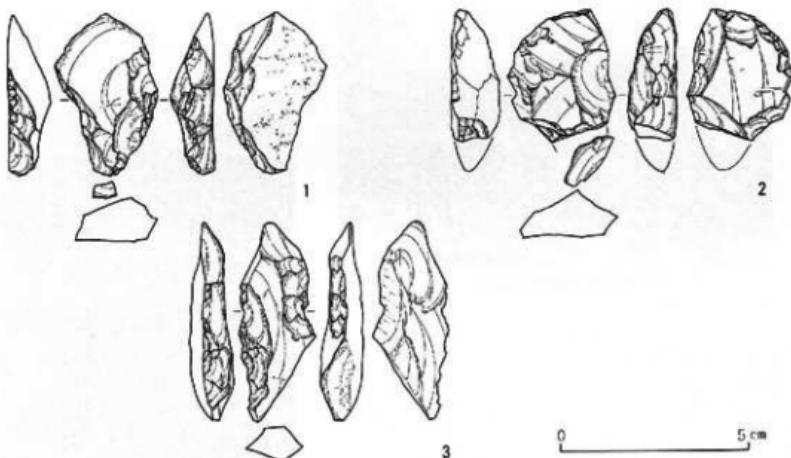
所在地 東八代郡中道町上向山字北原
事業名 国道358号線改良工事
調査期間 1989年1月30日～2月8日
発掘担当者 保坂康夫
調査面積 300m²

道路拡幅のため掘削される3地点について、幅2mの調査溝6本設定した。さらに、1.5m四方で深さ約1.5mの調査坑を、10m間隔

で17カ所設定し、先土器時代遺物の有無を確認した。その結果、古墳時代前期の炉址と思われる焼土址1カ所、S字状口縁台付甕などの土器数個体分が出土した。また、一カ所の調査坑から、先土器時代遺物が出土し、その周辺を幅4m、長さ8mにわたって拡張し、先土器時代遺物を完掘した。先土器時代遺物は、ソフトローム層下位の黒色帶中より出土した。A Tは黒色帶上面附近に分布の最大値があり、遺物はA Tより下位に分布していた。石器は、台形様石器2点、鋸歯状の縁部を持った削器1点、石核2点の他、剝片約50点である。遺物は、大きなブロック1カ所と、数点よりなるブロック1カ所の、2つのブロックに分かれて分布していた。



立石遺跡位置図 (1/25000)



立石遺跡出土石器実測図

III 県内の概況

県内の発掘調査は77件で、開発に伴うもの60件、遺跡の保護や確認・市町村史のための調査が17件である。なお、最近の発掘調査件数の推移を次のグラフに示した。



このグラフで判るように、1979年から発掘調査が増加しているのは、中央道建設に伴うものと、八ヶ岳山麓の畠場整備に伴う発掘調査が急増していることに起因している。また1987・88年の学術調査の増加は市町村史編纂に伴う調査や県が行っている生産遺跡分布調査の影響と思われる。しかし、全体の傾向とすれば、年によって多少の増減は見られるものの着実に発掘件数は増加し

ており、1988年度は10年前の1978年度の4倍強に増加している。こうした原因には、中央道の開通・首都圏の地価の高騰による地方への工場移転・道路整備・農業基盤整備・公園やリゾート開発プロジェクトなどがある。これらの土木工事は衰えるどころか中部横断道路・リニアモーターカー実験線などの計画によって、ますます増加する可能性もうかがえる。

本年度中に行われた県内の発掘で調査整備関連調査は14件、工場敷地造成・建物・住宅建設22件、農業関連事業5件、ゴルフ場4件、遺跡整備3件、道路8件、その他5件である。このうち工場敷地の造成に伴う発掘調査で、一宮町大原遺跡は一宮町遺跡調査会によって発掘が進められているが、ここは古墳時代後期から平安時代の大集落で、集落規模の大きさや出土品の豊富な事も原因であるが、『和名抄』に記載されている郷名のある「玉井郷長」という墨書き器が出土したことでも注目されている。長坂町小和田船跡は、中世船跡として数年前から注目されていた遺跡であるが、ここでも堀や建物址・地下式土壤が多数発見され、北巨摩郡地方の中世史を考えるうえで、不可欠な遺跡である。天狗沢窯跡は敷島町教育委員会が昨年から継続して調査している瓦窯で、3基目が検出された。県内最古の須恵器・瓦の兼業窯として編年上の基準となる遺跡であろう。宅地造成に伴う境川村京原遺跡は、縄文前期後半の遺跡で、住居址の中から炭化した豆類の種子が出土した。縄文時代の食生活を知るうえで貴重な発見である。塩山市黒川金山跡の調査は、武田氏の採掘した金山とその集落遺跡である。八代町堀之内遺跡は役場庁舎建設に伴うものであるが、ここは古墳時代後期から平安時代の集落跡で、特に奈良時代の住居群は、この地域では初見のものである。『和名抄』の「八代郷」にかかる遺跡として、開発に伴う今後の周辺調査が望まれる。春日居町門田遺跡は古墳時代～平安時代の集落で、地元ではかつての水害で流失したと考えられていたが、良好に遺跡が残っていた。このことは近接市町村の同じような地形でも遺跡の残存している可能性が濃厚となった。同町岡府遺跡は大きな礎石を用いた建物址群で、古代国府に関係する倉庫群と想定されているが、今後も継続調査が計画されている。

市町村での発掘調査も年々増加しており、市町村文化財専門職員は20名となっている。しかし、最近は調査規模が大きくなったり、調査件数が増加してくると、1名の職員では調査への対応が不可能となり、開発との調整で問題が生ずる場合がある。こうしたときに幾つかの遺跡では帝京大学山梨文化財研究所の援助を受けて、発掘調査が進められている。しかし、市町村で対応が困難な場合の、組織的な協力体制や新たな組織の確立なども、今後の課題となりつつある。

1988年度県内埋蔵文化財発掘調査一覧表(No. 1)

(「児童局」による)

1988年度県内埋蔵文化財発掘調査一覧表(No.2)

1989年3月25日 印刷
1989年3月31日 発行

年報 5 昭和63年度

発行所 山梨県埋蔵文化財センター
印刷所 株式会社 少国民社

